



[ハレとケのまち京都]
四季と年中行事に見る
京町家の生活文化

歴 050 (H25)

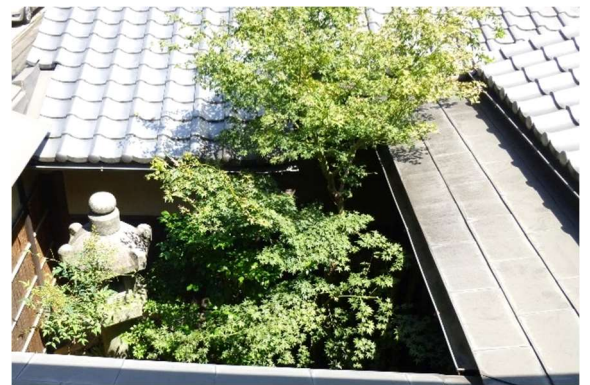
明治中期に建てたとされる町家を現当主が改修し、平成15年から民宿としました。この改修は、熟練の大工、左官、瓦屋等の手によるもので、躯体の歪みを直す「イガミ突き」「根継ぎ」など、伝統的な工法で行われ、解体で出た古材や古建具等、残せるものはできるだけ残し、使えるものは補修され使われています。

建物中央に通り庭があり、正面右手平屋部分が増築されていることにより、町家としては珍しい平面となっています。

主屋の正面外観1階は、出格子（糸屋格子）と格子戸、その南側は元々高塀であったものをガレージ出入口としています。厨子2階は虫籠窓で、通り庭は一部厨房となっていますが、火袋があるなど、昔の町家の風情も残されています。

通り庭の右手平屋部分は住宅、左手ミセ部分はライブラリーとして現代風にアレンジされている一方、天井は元の大和天井に戻されています。奥の座敷は、柱が杵材、床の間は檜の地板、床柱は絞り丸太で、違い棚を設えており、この座敷からは小さな坪庭を四季折々に眺めることができます。

昔ながらの風情を残しつつ、2階の宿泊用客間へ行き来するため、通り庭に階段を増設するなど、来客のプライバシーは確保されています。



坪庭



座敷

おやど ぬのや
小宿 布屋

〒602-8034 京都市上京区油小路丸太町上る米屋町281

電話／F A X 075-211-8109

アクセス 市バス「堀川丸太町」徒歩3分

ホームページ <http://www.nunoya.net/room/index.html>